

## 【 専門分野 】 母性看護学 6単位 195時間

### I. 科目構築の考え方

母性看護学は、ひとりの人間の生涯における性と生殖に焦点を当て、その人がその人らしく尊厳をもって生きることを支援する看護を学ぶ学問である。ここでいう母性とは女性のみを指す概念ではなく、多様な性のあり方や生き方を含む広い概念である。また、人間は身体的・精神的・社会的・性的側面が統合された存在であり、社会環境や文化、個人の価値観の影響を受けながら形成される。人間にとっての性はアイデンティティの重要な要素であり、社会とのつながりや自己実現を支える基盤でもある。その多様性は尊重されるべきものであり、生殖に関する選択は個人の権利として保障されなければならない。母性看護学では、このような権利擁護の視点を基盤としながら、ライフサイクルを通してその人の生活と成長発達を支える看護を学ぶ。

母性看護学の対象は、基本的には高いセルフケア能力を有し、適切な支援により健康の維持・向上や生活の質の向上が可能な人々であり、保健活動との関連も深い。したがって、母性看護学概論では、母性に関連する身体的変化や発達課題のみならず、家族・社会の変遷や多様な価値観を踏まえ、母性看護の役割と社会的意義について学ぶ。母性看護学方法論Ⅰでは、ライフサイクル各期における性と生殖に関わる特徴や課題、健康の保持増進に向けた支援について学ぶ。さらに、健康教育や保健相談を通して、対象が主体的に選択し行動できるよう支援する視点を養う。また、妊娠期・分娩期にある女性とその家族を対象とし、妊娠・出産という人生の出来事を安全に、かつ肯定的に体験できるよう支える看護を学ぶ。妊娠・分娩は正常な生理的過程であると同時に、変化への適応が求められる時期でもあるため、セルフケア能力の発揮や家族の役割形成を支援することの重要性を理解する。母性看護学方法論Ⅱでは、産褥期および新生児期を対象とし、出産後の身体的・心理的变化への適応、親役割の獲得、家族関係の再構築、新生児の成長発達を支える看護について学ぶ。母子のみならず家族全体の生活を見据え、地域とのつながりも含めた継続的支援の必要性を理解する。臨地実習では、周産期看護を学ぶ内容として母性看護学実習を設定する。

### II. 目的・目標

#### 1. 目的

身体的・精神的・社会的・性的に統合された人間の性的側面に焦点をあて、ライフサイクル各期の特徴と健康の維持・増進に対する知識・技術・態度を学ぶ。

#### 2. 目標

- 1) 母性看護に関する性や性的健康に関する多様な価値観や概念を理解する
- 2) 多様な場で生活する母性看護の対象を理解し、看護の対象を取り巻く社会と看護ニーズを理解する
- 3) 看護の対象のライフサイクルの特徴を理解し、看護の対象の健康レベルや健康問題のリスクに応じた看護を理解する
- 4) 妊娠から産褥にいたる正常な経過と生理的特徴を理解し、安全・安心な周産期を経過できるための看護を理解する
- 5) 胎児から新生児にいたる正常な成長・発達の経過と生理的特徴を理解し、母体外生活適応を促進する看護を理解する
- 6) 周産期（妊産褥婦および胎児または新生児）におけるハイリスクや異常とその看護を理解する

### Ⅲ. 科目の構成

専門分野	科目名 (時間)	単元 (時間)
母性看護学 6 単位 195 時間	母性看護学概論 (1 単位 15 時間)	母性看護の基盤となる概念 (4)
		母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 (1) 母子看護を支える地域と社会資源 (1)
		母性看護の対象理解 (4)
		母性看護における倫理 (2)
		母性看護における安全・事故防止 (2)
	母性看護学方法論Ⅰ (2 単位 60 時間)	妊娠期の経過と看護 (10)
		妊娠期における母体と胎児の健康レベルに応じた看護 (6)
		分娩期の経過と看護 (8)
		分娩の異常と看護 (6)
		産褥期における生理的特徴及び診断 (2)
		産褥期の特徴をふまえた看護 (2)
		産褥期に必要な看護技術 (6)
		産褥期における褥婦の異常と看護 (2)
		早期新生児期における生理的特徴及び診断 (2)
		早期新生児期における看護 (4)
		新生児の異常と看護 (2)
		退院前から退院後の看護 (2)
		早期新生児に必要な看護技術 (4)
	産科における看護 (4)	
	母性看護学方法論Ⅱ (1 単位 30 時間)	ライフステージ各期における看護 (12)
		母性看護における専門的な支援 (2)
		健康教育の実際 (6)
		産褥期・新生児期の事例展開 (10)
母性看護学実習 (2 単位 90 時間)	周産期看護 子育て支援	

#### IV. 授業の概要（シラバス）

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	母性看護学概論 1 単位（15 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期
講師名 所属	村上 由紀 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験：助産師 9 年						
授業概要	人間を身体的・精神的・社会的・性的に統合された存在として理解し、生と性、性と生殖の観点から多様な価値観に基づく性的健康について学ぶ。母性看護学における看護の対象は「女性」「母親」に限局せず、人間のライフサイクル各期におけるあらゆる健康レベルのすべての人びとである。性に関する概念や考え方は看護の対象の環境（社会や時代背景）が影響しており、看護の対象個人の問題としてだけではなく広くとらえることが必要である。これらの看護ニーズについて学ぶ内容であり、小児看護学概論、成人・老年看護学概論、精神看護学概論、地域・在宅看護論と並行しながら学ぶ。						
科目目標	1. 母性看護の基礎となる性や健康に関する概念を理解する 2. 看護の対象の健康の意義および健康に影響を及ぼす要因を理解する 3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷及び現状を理解する 4. 看護の対象のライフサイクル各期の特徴と看護を理解する 5. 自己の生と性、性と生殖に関する価値観を考える機会とする						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学各論 医学書院						
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術確認		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは (1) 母性の定義 (2) 母性の特徴 (3) 親になること (4) 母子家庭と家族発達 2) 母性の発達・成熟・継承 (1) 母性、父性、親性の発達 (2) 母子関係と愛着 (3) 母性の世代間伝達			講義		村上 由紀	
2	3) セクシュアリティ 4) リプロダクティブヘルツ／ライツにおける問題 5) ヘルスプロモーション 6) プレコンセプションケア 7) 母性看護のあり方 8) 母性看護を支える理論						

3	<p>2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状</p> <p>1) 母性看護の変遷</p> <p>2) 母性看護の動向（母子保健統計の推移）</p> <p>3) 母性看護にかかわる法律</p> <p>3. 母子看護を支える地域と社会資源</p> <p>1) 母子保健法と児童福祉</p> <p>2) 法令と関係職種</p> <p>3) 地域における支援体制</p>		
4・5	<p>4. 母性看護の対象理解</p> <p>1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化</p> <p>2) 女性のライフサイクルと家族</p> <p>3) 女性のライフステージ各期における健康と看護</p>	講義	村上 由紀
6・7	<p>5. 母性看護における倫理</p> <p>1) 母性看護における倫理</p> <p>(1) 生殖補助医療・遺伝子診断の発展に伴う倫理的問題</p> <p>(2) 女性の健康に伴う倫理的問題</p> <p>(3) 女性の意思決定権と倫理</p> <p>(4) 倫理上の問題に対する看護職者の役割</p> <p>6. 母性看護における安全・事故防止</p> <p>1) 母性看護における安全・事故防止</p> <p>(1) リスクマネジメント</p> <p>(2) 事故への対応</p>	講義・演習	
8	終講試験	試験(評価)	単位認定者 村上 由紀

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	母性看護学方法論 I 2 単位 (60 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期
講師名 所 属	院内講師 西川 小百合 島田 雅子 大串 理沙 松尾 優林 佐々木 真由美	嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 長崎県看護キャリア支援センター	産婦人科医師 小児科医師 助産師 助産師 助産師 看護師 助産師				
授業概要	<p>この科目では、成熟している成人が、互いに助け合いながら新たな命と家族をはぐくむ周産期に焦点をあてて学ぶ。</p> <p>妊娠期は、妊婦とその家族のセルフケア能力が高く、健康レベルも高いことから、周囲のサポートと保健・医療・福祉の連携・協働によって妊娠を経過することが多い。しかし、近年の社会環境は著しく変化しており、特別な支援を要する妊婦とその家族や多様な価値観をもつケースも多い。すべての妊婦とその家族が健康で健やかな妊娠経過を過ごし、安全・安心な分娩・育児期を迎えられるよう保健活動を含めながら学ぶ。分娩期は、正常妊娠経過であっても胎児と妊婦が生命の危機に直面するケースもある。近年はハイリスク妊娠も増えており、小児科との連携が必要なケースもある。産婦とその家族が安全にバースプランにそって適切な医療と看護を受け、分娩がよい体験としてその後の産褥・育児期のエネルギーになるよう専門的な看護を学ぶ。また、助産に関わる部分は助産師がリーダーシップを発揮し、産婦とその家族に寄り添い助産を行うため、看護師はそのサポートを行う。また、分娩は胎児にとってもハイリスクな状況にあるため、高い観察力によって迅速な医学的対応に備える。</p> <p>産褥期は、身体の退行性変化（復古現象）と新たな命を育てる進行性変化(母乳栄養)や新たな親としての役割獲得期である。また、母体外生活に適応していく新生児のケアである育児技術の獲得期でもある。これらの特徴とその看護を理解し、退院後の生活を見据えて保健・医療・福祉の連携・協働の重要性と関係法令、その家族を支える地域のあり方を学ぶ。さらに、産褥期・新生児期の事例展開を行い、産褥期・新生児期にある対象のアセスメントの視点と看護について理解を深める。</p>						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常な妊娠の経過及びその対象の生理的特徴を理解する</li> <li>2. 妊娠期の身体的・心理的・社会的特徴をふまえた看護を理解する</li> <li>3. 正常な分娩の経過及びその対象の生理的特徴を理解する</li> <li>4. 正常な経過をたどる分娩期の看護を理解する</li> <li>5. 妊娠期から分娩期の妊産婦と胎児の異常とその看護について理解する</li> <li>6. 正常な産褥の経過及びその対象の生理的特徴を理解する</li> <li>7. 胎児の発育および新生児の生理的特徴を理解する</li> <li>8. 正常な経過をたどる新生児の看護について理解できる</li> <li>9. 妊娠・分娩・産褥・新生児の看護に必要な看護技術を習得する</li> <li>10. 産褥期および新生児期の異常とその看護について理解する。</li> <li>11. 母子をめぐる保健・医療・福祉の連携・協働の実際を理解する</li> <li>12. 周産期(産褥および胎児・新生児)にある看護の対象の健康レベルに応じた看護を</li> </ol>						

	理解する 13. 母子をめぐる保健・医療・福祉の連携・協働の実際を理解する				
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院				
参考文献	1. 根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社 2. ペリネイタルケア メディカ出版 3. 助産雑誌 医学書院				
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照				
	筆記試験	○	レポート		技術確認
	口頭試問		授業態度		出席状況
授業計画					
回数	講義内容	教授・学習方法		担当講師	
1	1. 妊娠期の経過と看護 1) 妊娠期の経過 (1) 妊娠の成立 (2) 妊娠期の母体の生理的变化 (3) 胎児の発育と生理 (4) 胎盤・羊水の生理	講義		島田 雅子	
2	2) 妊娠期のアセスメント (1) 妊娠の診断・検査 ① 妊娠反応、妊娠の鑑別 ② 妊娠時期の判断 (分娩予定日算出) ③ 胎児の触診 (レオポルド4段診察法) ④ 内診 ⑤ 血液検査 (2) 胎児の健康状態の診断 ① 胎児心拍数聴取 ② ノンストレステスト、胎児心拍数陣痛図 ③ 羊水検査 ④ 超音波検査 (3) 妊娠および胎児の経過の診断 ① 妊娠健康診査 ② 基礎情報 ③ 産科的診察法	講義			
3	3) 妊娠期のアセスメントに必要な技術 (演習) (1) 胎児心拍数聴取 (トラウベ棒状聴診器、ドップラー法、ノンストレステスト・胎児心拍陣痛図) (2) レオポルド4段診察法 (3) 子宮底・福井の測定 (4) 乳房の観察・測定	演習			

4	<p>4) 妊娠期における不快症状（マイナートラブル）  (1) つわり (2) 便秘 (3) 頻尿  (4) 腰背部痛 (5) 静脈瘤</p> <p>5) 妊娠期における日常生活のアセスメントと看護  (1) 食生活 (2) 嗜好品 (3) 飲酒・喫煙  (4) 清潔 (5) 運動 (6) 衣生活</p>	講義	島田 雅子
5	<p>6) 妊娠期における教育の実際  (1) 妊娠期の日常生活に関する看護  ① 妊娠期の衣生活（衣服の種類と着帯指導）  ② 妊婦体操  ③ 乳房ケア</p> <p>(2) 親になるための準備教育  ① 出産準備教育  ② 育児準備のための健康相談・教育  ③ 家族役割調整のための健康相談・教育</p>	講義	
6	<p>2. 妊娠期における母体と胎児の健康レベルに応じた看護</p> <p>1) 妊娠期の母体の異常とハイリスク  (1) 流産 (2) 早産 (3) 感染症  (4) 常位胎盤早期剥離 (5) 前置胎盤  (6) 切迫流産 (7) 切迫早産  (8) 高齢妊娠・若年妊娠  (9) 妊娠高血圧症候群 (10) 妊娠糖尿病  (11) 妊娠貧血 (12) 妊娠悪阻</p>	講義	産婦人科医師
7	<p>2) 胎児期の異常とハイリスク  (1) 染色体異常  (2) 感染症  (3) 胎児合併症  (4) 不育症、胎児機能不全  (5) 胎位・胎勢異常</p>	講義	
8	<p>3) 異常妊娠の看護  (1) 高年・若年妊婦の看護  (2) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護  (3) 合併症妊婦の看護  (4) 切迫流・早産の妊婦の看護  (5) 前置胎盤・常位胎盤早期剥離時の看護  (6) 骨盤位</p>	講義	島田 雅子

9	3. 分娩期の経過と看護 1) 分娩の要素 (1) 分娩とは (2) 分娩の3要素 (3) 胎児と子宮及び骨盤との関係 (4) 分娩の機序	講義	大串 理沙
10	2) 分娩様式 3) 分娩の経過 (1) 分娩の進行と産褥の身体的変化 (2) 分娩が胎児に及ぼす影響 (3) 産婦の心理・社会的変化	講義	
11	4) 分娩各期の看護 (1) 分娩第1期～分娩第4期の看護 (2) 産痛緩和法（ラマーズ法、ソフロロジー法、無痛分娩） (3) 分娩を促進する日常生活援助	演習	
12	5) 分娩期に必要な看護技術 (1) 陣痛および胎児の観察 (2) 産痛と産痛緩和 (3) 呼吸法と弛緩法 (4) リラクゼーション (5) 圧迫（ツボ療法）	講義	
13	4. 分娩の異常と看護 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児および胎児付属物の異常 4) 分娩時損傷（子宮破裂、経管破裂、会陰裂傷） 5) 分娩時異常出血	講義	
14	6) 産科処置・手術（分娩誘発、会陰切開、鉗子分娩・吸引分娩、帝王切開）	講義	
15	7) 分娩時異常のある産婦の看護 (1) 破水時の看護 (2) 分娩遅延リスクのある産婦の看護 (3) 胎児機能不全リスクのある産婦の看護 (4) 分娩時異常出血の看護 (5) 帝王切開術の看護	講義	大串 理沙
	中間試験	試験（評価）	産婦人科医師

16	<p>5. 産褥期における生理的特徴及び診断</p> <p>1) 産褥経過とその特徴</p> <p>2) 産褥期におけるリスクと診断</p> <p>6. 産褥期における看護</p> <p>1) 産褥期における退行性変化の特徴とアセスメント</p> <p>2) 産褥期における母乳栄養確立とアセスメント</p> <p>3) 産褥期における心理・社会的特徴とアセスメント</p>	講義・演習	松尾 優林
17	<p>7. 産褥期の経過を促進する看護</p> <p>1) 子宮及び全身の復古現象(退行性変化)の促進</p> <p>2) 母乳栄養の開始(進行性変化)の促進</p>	講義	
18	<p>8. 産褥期に必要な看護技術</p> <p>1) 子宮及び全身の復古を促進する技術</p> <p>(1) 子宮及び全身の復古に与える影響因子</p> <p>(2) 子宮及び全身の復古の診断(観察)</p> <p>(3) 復古を促進するマッサージ、産褥体操</p>	演習	
19	<p>2) 母乳栄養の開始と母乳栄養確立を促進する技術</p> <p>(1) 母乳栄養に与える影響因子</p> <p>(2) 母乳栄養開始時の育児技術</p> <p>(3) 母乳栄養を促進するマッサージ</p> <p>(4) 母乳栄養に関するトラブルと管理方法</p>	講義	
20	<p>3) 親役割獲得と母子相互作用</p> <p>(1) 母親役割獲得とマタニティブルー</p> <p>(2) 父親役割獲得とクバート</p> <p>(3) 祖父母や兄姉の心理</p>	講義	
21	<p>9. 産褥期における褥婦の異常と看護</p> <p>1) 子宮復古不全 2) 産褥期感染症</p> <p>3) 産褥熱 4) 乳腺炎</p> <p>5) 産褥期精神障害 6) 帝王切開</p> <p>7) 児を亡くした褥婦および家族への看護</p>	講義	
22	<p>10. 早期新生児期における生理的特徴及び診断</p> <p>1) 分娩経過と胎児</p> <p>2) 出生直後の呼吸・循環状態</p> <p>3) 早期新生児期における母体外生活適応</p>	講義	佐々木真由美
23	<p>11. 早期新生児期における看護</p> <p>1) 出生直後の看護</p> <p>(1) 出生直後の観察</p> <p>(2) 出生直後の新生児の予備力に応じた保温</p> <p>(3) その後の経過影響を与える因子の診断</p>	講義	佐々木真由美

	<p>(計測)</p> <p>2) 出生から 24 時間までの看護</p> <p>(1) 母体外適応能力の観察</p> <p>(2) 早期授乳・早期母子相互作用の促進</p>		
24	<p>3) 出生後から退院時までの看護</p> <p>(1) 体温の維持</p> <p>(2) 生理的黄疸の観察と診断</p> <p>(3) 生理的体重減少と体重増加</p> <p>(4) 哺乳と排泄の観察と診断</p> <p>(5) 全身状態の変化</p>	講義	佐々木真由美
25	<p>12. 新生児の異常と看護</p> <p>1) 低出生体重児の看護 2) 早産児</p> <p>3) 新生児仮死 4) 新生児呼吸窮迫症候群</p> <p>5) 高ビリルビン血症</p>	講義	西川 小百合
26	<p>13. 退院前から退院後の看護</p> <p>1) 退院時診察</p> <p>2) 両親の育児に関する知識・技術・支援状況</p> <p>3) 退院後の看護</p> <p>(1) 育児不安と育児支援</p> <p>(2) リスクのある新生児のフォロー</p> <p>(3) 活用可能な社会資源と関係職種</p> <p>(4) 職場復帰と育児支援</p>	講義	佐々木真由美
27・28	<p>14. 早期新生児に必要な看護技術</p> <p>1) アプガースコアとバイタルサイン</p> <p>2) 身体計測</p> <p>3) 黄疸の計測と診断</p> <p>4) 沐浴</p>	演習	佐々木真由美
29・30	<p>15. 産科における看護</p> <p>1) 産科病棟の特徴と管理</p> <p>2) 産科における医療安全と事故防止</p> <p>(1) 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に起こりやすい事故と事故防止対策</p> <p>3) 産科領域における倫理</p>	講義	佐々木真由美
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 産婦人科医師

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	母性看護学方法論Ⅱ 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期
講師名 所属	坂口 尚子 助産師 村上 由紀 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験：助産師 9 年 東垂水 朋子 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験：看護師 15 年						
授業概要	<p>この科目では、女性の各期（思春期、成熟期、更年期、老年期）およびライフサイクルにまたがる健康問題と看護と、成熟している成人が、互いに助け合いながら新たな命と家族をはぐくむ周産期に焦点をあてて学ぶ。</p> <p>各期のライフサイクルにまたがる健康問題と看護については、健康教育、保健相談の必要性についても理解し、健康教育に実践について学ぶ。また、妊娠・分娩・産褥・新生児の母子と家族を対象にウェルネス思考の観点から強みを捉えた必要な看護について、看護過程を用いながら学ぶ</p>						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフステージ各期における身体的・心理社会的特徴を理解し、各期に応じた健康課題と看護の役割を説明できる。</li> <li>2. リプロダクティブヘルスケアについて理解し、対象の尊厳と権利を尊重した看護を説明できる。</li> <li>3. 健康教育およびヘルスプロモーションの理論とプロセスを理解し、ライフサイクル各期に応じた指導計画を立案できる。</li> <li>4. 産褥期および新生児期の事例をウェルネスの視点で分析し、情報の整理・関連図作成・看護診断・看護計画立案を行うことができる。</li> </ol>						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院</li> </ol>						
参考文献							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術試験		
口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1・2	1. ライフステージ各期における看護 1) 思春期の看護 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴 (3) 思春期における健康教育 (4) 健康問題と看護			講義		村上 由紀	
3	2) 成熟期の看護 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴（結婚、出産、育児、就業など） (3) 成熟期における健康教育			講義		村上 由紀	

	(4) 健康問題と看護		
4	3) 更年期の看護 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴 (3) 健康問題と看護 4) 老年期の看護 (1) 身体的特徴 (2) 心理・社会的特徴 (3) 健康問題と看護	講義	
5・6	5) リプロダクティブヘルスケアの実際 (1) 家族計画 (2) 性感染症とその予防 (3) 人工妊娠中絶と看護 (4) 性暴力を受けた女性に対する看護 (5) 児童虐待と看護 (6) 国際化社会と看護	講義	
7	2. 専門的な支援を必要とするカップルや夫婦の支援 1) 不妊症 (1) 不妊症の定義、原因、治療 (2) 不妊治療を支援する制度と関連職種 2) 障害をもつカップルや夫婦の支援 (1) 妊娠から育児に伴う母体やその家族への影響 3) 性に関連する多様な価値観を持つ人々の支援	講義	坂口 尚子
8～10	3. 健康教育の実際 1) 健康教育 (1) 健康教育とは (2) ヘルスプロモーション (3) 健康行動理論 (4) 自己効力感 (5) 健康教育のプロセス 2) ライフサイクル各期の健康教育（周産期を含む） 3) 指導計画立案 4) 健康教育発表会	演習	
11～15	4. 産褥期・新生児期の事例展開 1) ウェルネス視点の考え方 2) 情報の整理・解釈 3) 関連図 4) ウェルネス看護診断 5) 1日の看護計画立案	演習	東垂水 朋子

	終講試験	試験(評価)	単位認定者 村上 由紀
--	------	--------	----------------